昭和26年（1951）　1月1日（月曜日）　第187号　磐城毎日新聞　定價1ケ月50円　一部賣二円　第三種郵便物認可（一）

磐城毎日新聞

社長　大和田與兵衛
發行所　福島縣平市南町
株式會社　磐城毎日新聞社
編集兼印刷人　遠藤孝倫
發行人　遠藤孝倫
電話（平）一二一〇番

謹賀新年
堀江工業株式會社
社長　長谷川常吉

新春を迎え

過去一年を回顧して

平市長　鈴木辰三郎

昭和二十五年は終戰以來洵に畫期的の年でありまして、即ちシヤウプ勧告による均衡豫算の確立並びに、税制の改革等により終戰後インフレーションの昂進が我が國經濟を危殆に瀕せしめ、一歩謬ればその崩壞亦避け得ざるの危機にありましたものを、連合國の適切なる御指示により一應インフレーションの昂進は終息し戰後始めて安定の緒につき經濟統制も漸次撤廢せられ、正常軌道に乘らんとしつゝありますことは眞に御同慶に存ずる處であります

然しながら、反面この變革期による余波を被つた各種産業に於ける經營必ずしも容易ならざる事は既に各位御承知の如くであります

が、之は我が國經濟の正常復歸國際貿易への參加のためには、好むと好まざるとにかゝわらず一度は必ず通過致さねばならぬ難關でありまして、之を克服致しましてこそ我が國再建の曙光を始めて望み得るものと信ずる次第であります。

私共は敗戰國が受く可き冷嚴なる現實を充分自覺し安易なる心を嚴に戒め鄕土復興、延いては祖國再建のため、愈々志を固くして尙一層の努力を捧げなければ相成らぬことを肝に銘じ度いと存ずるものであります

ひるがへつて世界の現狀を眺めますれば第二次世界大戰による慘禍は强く各國民の戰爭嫌惡の情を刺激し最早再びこの犧牲を忍ぶが如きことはなきものと考えられるにも不拘現實の姿は寧ろそれを否定するかに見えまする事は實に憂慮に堪えないことであります。斯く國際關係の對立激化はその勢の赴くところ如何なる事態に立ち至らんか、豫測を許さぬ情勢にありまして我が國の前途亦多難なるを豫想されるのであります。

もとより我が國の徵力を以つてして、この大勢を既往に返すことの如何に至難の業であるかは充分理解されるのでありますが、及ばずとは雖も尙全力を傾注して世界恒久平和を希求致さねばならぬと確信するものであります

扨て我が平市市政過去一年を回顧致しますに、昨年一月十五日市廳舍の竣工祝賀を始めとし四月には第三中學校、校舍の新築を了し相次ぐて飯野、神谷両村の合併成立し、都市計畫三十米道路も大半の工を終え、その他庶民住宅の新築、街路燈の整備、競輪事業の着手等關係各位の絶えざる御支援、御努力によりこの成果を收め得ましたことは洵に感謝に堪えないところであります。而して昭和二十六年度に於きましては、水道擴張工事を始めとし引續き今取り掛りつゝある各事業の完成を期し、尙學校々舍の修繕及び增築住宅問題の解決を急ぎ、新に平驛北口開設等の計畫の實現を策し觀光、産業、文化の振興發展を以つて市民各位の福利を增進し又一面負擔の輕減を計り度いと存ずるものでありまして、之れ亦關係各位の御協力を切望して已まない次第であります。

顧ればこの本市は昭和十二年六月一日市制布かれて以來、先人粒粒辛苦の經營を過般の戰災により一朝にして烏有に歸し、爾來六年今日東北稀有の復興を示しましたことは、之偏に市民各位の熱烈なる愛市の一念によるものと此機會に深甚の敬意を表する次第であります

尙この際特に申し添えたいことは未だ異鄕に在りまして日夜望鄕の想いに心かられて居られる方々、故國に於て歸國を一日千秋の想いで待ち詫びておられる家族の方、或は戰爭により一家の支柱を失いその日の生活にも困窮せられておられる人々にも想いを致すときこれが救援は一刻もゆるがせにすることの出來ない實に堪えません我々としてはとりあいず縣政肅正の決議をなすと共に今後かゝる事態の再び起らざるやう拔本塞源的な處置をとるべきものと考い種々考究中でありますが何れ明朗なる縣政を縣民各位に御諒解できる時期の來ることを予期しております

新年と共に我福島縣の前途は明るいものがありますしかしそれは天與の恩惠を生かすべき我々縣民の努力と創意を最有効且能率的に發揮させるべき合理的方途を講ずる義務があります、これに就て申し上げたいのは先般の定例議會に於て六十四億四千餘万円の予算を議決致しましたがこの縣民各位の汗の結晶たる金額を生かすべく我々は縣當局と尙一層緊密な連けいの下に縣民各位の公僕として萬全の施設と企畫實施することを年頭に於て覺悟を新にするものであります一言所懷を述べて年頭の辞と致します

年頭の辞

福島縣會議長　蓮沼龍輔

多事多難であつた二十五年を送りこゝにお互に健康で迎えました事は、縣民各位と共に慶祝に堪えません

一方國際情勢は愈々緊迫の度を增しております戰爭を放棄した我々日本人は東亞の事態の變遷に對して深甚の關心をもつものであります、願うところは東西両世界の大國が深い人類愛に立脚して人間の叡智の示すところに從ひ人類の滅亡を招くが如き破局に至らない事を切に望むものであります

この間にあつて我々の憂慮に堪えないのは中共軍介入後の朝鮮戰局歸趨であつて一葦帶水の我國の運命に重大關係をもつに至つたのであります、我々は事難の早期解決をこひ願い世界永遠の平和を待望して已みません、終戰以來六年我々國民は勤勉と創意加ふるに豐富な潛在工業力をもつてアジヤの生活必需物資の生産は勿論廣く全世界の生活水準の向上に寄與すると共に産業振興を盛んにしもつて正常なる國際關係を恢復し平和國家として人類の幸福に一臂の力を貢獻したいと念願するものであります

幸に我が福島縣は本來土地廣大その上各方部に極めて特色ある物資を産しておりますが交通及び原動力その他の制限等のため今日まで開發せらるべくして未だ未開發のまゝに至つておりますが近來漸く各種の化學工業が各地に建設せられ農村近代的な工業縣として立たんとしております、就中水力電氣を主体とする動力は先般來大きく取上げられて來た只見川水域の開發は本年は我々が努力してその具体化に進むべき大目標であります、數十万粁に昇るその電力は我福島縣のみならず實に日本の寶であります、その電力による工業生産、鐵道の電化等による本縣並びに東北の産業振興は注目に値すると思います我々は寶電縣でなく、電氣消費縣となりこれによつて磐通り中通りの工業化の上に更に會津方部の資原開發を計らねばなりません、工業開發と共に土木事業もまた盛んに行はれることゝなりますがこの點最近の土木問題の汚職疑獄は甚だ遺憾に堪えません我々としてはとりあいず縣政肅正の決議をなすと共に今後かゝる事態の再び起らざるやう拔本塞源的な處置をとるべきものと考い種々考究中でありますが何れ明朗なる縣政を縣民各位に御諒解できる時期の來ることを予期しております

謹みて新年の賀詞を述ぶ

社員一同

讀者各位と共に新春を迎えお同慶に堪えません本紙も創刊以來日淺きにも拘ず歲末の慌しいさなかに新社屋への移轉、社陣容の整備等幾多の充實を期して第二歲を迎えたことはこれ偏へに公正なる地方紙として各位のお支援を賜と社員一同感激致して居ります

本年こそは飛躍的紙面の刷新によつて讀者各位のお期待に應える決意でありますいさゝか微意を申上げ年頭の賀詞と致します

昭和廿六年元旦

元旦　新年　賀詞　1951

平市役所
市長　鈴木辰三郎
助役　阿部治英

福島縣議會
議長　蓮沼龍輔

福島縣議會
議員　小野義一

石城地方縣出先機關協議會

平商工會議所
會頭　諸橋久太郎

平地區警察署長
警視　佐藤新八

平市公安委員會
山崎與三郎
猪狩庄平
矢吹大一郎

平市警察署長
警視　宇佐美吾市

平市消防署長
井上貞治郎

平市消防團長
松本金市郎

平市堂根町三五
平電氣通信管理所
所長　佐久山英治郎
電話一五〇〇番

平郵便局長
小倉利市

平醫師會
會長　實川彌太郎

平市飯野支所
支所長　永山亮太郎
次長　佐藤平吉
出納員　山野邊喜一

平市神谷支所
支所長　神谷市郎
次長　佐藤儀三郎
出納員　水野久一

石城地方町村會
會長　鈴木榮一
副會長　高木武一郎
副會長　草野寅伊
事務局長　橋本勳
泉村長　吉田勝記
渡邊村長　永山定秀
植田町長　渡邊國之助
山田村長　蛭田三郎
錦町長　高木武一郎
勿來長町　小松實
上遠野村長　荒川久馬
入遠野村長　酒井正雄
川部村長　鈴木長治
田人村長　澤田源次
夏井村長　青木半次郎
高久村長　鈴木正一
豐間村長　四家健雄
江名町長　中田佑一郎
鹿島村長　八代義定
小名濱町長　水野政次郎
磐崎村長　太田原憲太郎
湯本町長　松本久吉
內郷長町　山崎辰亥
好町村長　鈴木榮一
赤井村長　吉田萬吉
永戸箕輪村長　柴崎左七
澤渡三阪村長　永山繁義
草野村長　坂本惣次郎
大浦村長　阿部崇順
四倉町長　花澤乙丸
大野村町　西山惠一
上下小川村長　草野寅伊
川前村長　新妻長太郎

石城郡町村議會議長會
會長　大河原茂平
副會長　菅原勳
〃　青天目信治郎
事務局長　橋本勳

平市金融團
（いろは順）
日本勸業銀行平支店
東邦銀行平支店
富士銀行平支店
常陽銀行平支店
七十七銀行平支店
平信用組合
大東無盡株式會社　平支店
福島無盡金庫株式會社　平支店

磐城土建工業株式會社
社長　强口唯七郎
平市小太郎町三八
電話五九、一八二、一〇三四番

常磐炭鑛福島縣販賣株式會社
社長　阿部政右衛門
平市田町二四

高橋工業株式會社
平出張所
平市南町六六

鈴木工業株式會社
社長　鈴木正平
平市正月町六一

食糧配給公團
福島縣平支所
所長　片寄保

平稅務署長
小貫數馬

平營林署長
勅使河原美則

日本專賣公社
平出張所長　本多貢
外職員一同

福島縣石炭販賣株式會社
平出張所
平市白銀町九
電話八八三、一二九七

東部瓦斯株式會社
平事業所
平市佃町三二

磐城通運株式會社
取締役社長　鈴木條三郎
平市田町六〇

石城酒造株式會社
取締役社長　古川傳一
平市鍛冶町一八
電話一二六番

ことしは明るい平市

諸般の施設も完成される

新年を迎えた平市は戰災復興事業もいよいよ三月までには完成されることになつて居りいくたの施設もそれに伴い本年こそは市發展に飛躍的年廻りとして明るい見通しもついている、それで道路の改修都市改良とつぎつぎ舊体を一變してゆくであろう、人口の増加に伴う住宅難も公私の復興意慾に俟つて着々その不足は補はれ市東南部に進展される傾向にある、競輪場の完成と〻もに大通りの延長開鑿は並行して工場、住宅等も續々移行される氣運にあり關係當局の計畫實行に期待するものが多い、濱通りの工業地區化や水産振興なども既に縣會において實行豫算化されて居り終戰後六年目で郡下の眠る資源は開發されその大なり小なりが平市に直接恩惠を浴びることは疑う余地がないと市の各層では明るい希望の觀測をしている

×

かん成が期待されている本年度の見通しとしては總豫算約千万円で昨年度と大差なく事業内容も現存着手の道路補装、補修等はその大半繼續され新たなものとしては平―江名線、新田橋（市内谷川瀬地内）の架替國平復興建設事務所の廿五年度豫算は一千三百六万六千円で内都市區劃整理し六で廿六年度の牧野解放面積百七十万圓、街路三百五万一千二百廿四町歩を採草地円、河川水路百廿八万円上として拂下げする事を決定下水道費百十万円、其の他ご覽の通り滿開主なものとしては市の中央を通る三十米道路東北配電―地區警察前をつらぬく三十米道路などがあげられいずれも九分通りの完成を見平市の發展に期待されている、なお廿六年度は都市復興の總仕上の年と言われ今年度發事業の完成と新しいものとしては材木町、紺屋町の區別整理、新川以南の尼子、但、童子町を通じての新設道路事業及び三十米道路から上流地帶新川に埋立てなどが擧げられ豫算は廿五年の約二倍に尼子、但、童子町を通じての新設道路事業及び三十米道路から上流地帶新川に埋立てなどが擧げられ豫算は廿五年の約二倍に

未吉所長語る

廿五年度は一部地下埋藏物移轉などのためおくれたところもあるが大体豫定通り進み三、四年期現在で八十%は達成されている、復興事業も後一息と言うところにあり廿六年度は豫算も昨年度より倍加されているので總仕上げの年として大いに努力し居るなお新設道路等に依然ゴミクズや物品置きなどに使用めいわくをかけている人もあるが廿六年までに進行しているが完成は來年五月の豫定

災害から國土救う

飛躍的な土木事業で

管内各事業を通じ最も困難なのは何と言つても失業對策事業で自由勞務者を氣分良く、能率的に就勞せしめ、失業救濟事業の目的と合せ事業の成果を擧げると言うことは今後の大きな問題の一つである、災害は私が二十二年平に赴任以來今年が最大の年である其の原因のほとんどはやはり河川改修の不備にあり、主要食糧其の他の增産確保のためにも万全を期したい、好間川の改修は管内を災害から救うためにも急であり特に地方文化産業の發展は道路からと言われており土木事業をあずかるものとして責任の重大であることを痛感している二十六年度はこれら基礎事業の一大飛躍のため努力したいなお昨年度は勞力のみによる舊体を一新グレダー等による機械力を取り入れ地方の要望に應えたい＝平土木監督所上村所長談＝

本年度土木事業費六千万円

平土木監督所管内廿五年度工事總豫算は約六千圓でその内譯は道路關係が一千百八十二万円、河川二百万円、港灣八百万圓、災害復舊費三千二百六千万円（河川道路會）△失業對策關係三千八百九十六万二千円其の他となつており主な工事箇所としては府縣道石川―湯本線（磐崎村地内）同井田木―綴線（三輪村地内）同上三阪―平線（永戸村地内）の約六百万円、尼子橋一千一百万圓、四倉港修築の八百万円、及び河川防災夏井川（上小川、夏井村地内）の四百万円でいずれも本年内かん成の見込などが上げられ地方産業發展のためにもその

9の字の話

小賈數馬

私達稅務の職に奉するものは、數字とは切つても切れない間柄でありまこの誤差は九、一八、二すので數字に七、三六、七二等で必ずは平常九勞も九で割り切れる數字なのし九戰し、九で帳簿等の計數を精査、汗をなめて居審査、監査する場合、九ります帳簿に の字を頭に入れてやれば轉記するのに案外に早く誤謬が發見さよく四三〇を れる

三四〇に五七 今年こそは、九の字で六を五六七の 六を三、一〇〇に、二、大いに計數の正確化を計〇二〇を二、二〇〇に、やうに位取をり、稅の面に於ても、ご九〇〇となり又三、〇一 九らくとなる樣に九心したいと思ふ

簡單に間違ふ事が多いこの誤差は必ず九、九〇、

＝筆者平稅務署長＝

千二百町歩の牧野開放

平土改事務所本年工事概況

平土地改良事務所の本年度事業の成果は廿二、廿三、廿四の各年度分をすべて完了し廿五年度四、五、六、八の四年度復舊工事は三ヶ年計畫、工費一億円の豫算をもつて着々進捗して居たが四、五両月の復舊工事は一割程度の進行であつたが三月末までには一應完成の豫定となつている

勿來町水道

五月まで完成

勿來町水道施設は川部村の四時川支流から引水して山田地内のろ過地を通るダービン式ポンプ二台で送水する工事は昨年度工費七十万で着工し年内に同町窪田の町役場附近まで給水し得るまでに進行しているが完成は來年五月の豫定

官民合同年賀交禮會

平市元旦の官民合同年賀交禮會は一堂に會し午前十時から市公會堂に擧行する、出席申込者卅日締切りで五百名を突破して居り十年振りに復活したもので盛會を極めることであろう

新年早々灌漑工事着手

鮫川水利組合では工費一千九百万円を以つて本年より四ヶ年事業とし磐崎村地内の鮫川から灌がい工事を着手することに決定した本工事の完成により受益地域は磐崎村を始め小名濱町に至る水田三百五十町歩に亘るものである

新川埋立工事など

二千五百万円を要求

廿五年を切つて牧野解放の實測を完了した植田營林署に次いで廿六年度の牧野解放面積一千二百廿四町歩を採草地として拂下げする事を決定一月早々入札を開始する、この面積は管内總牧野面積の六十五%に當る土地で拂下げの予定地は三阪村六百八十八町歩、永戸箕輪村四百十九町歩などのほか川前夏井、大野など山間へき地一帶にわたつている

花の櫻

平市内湯殿山境内にある櫻

正月もお

櫻は例年のことながら暮から正月にかけてご覽の通り滿開します、空つ風に吹きさらされて毛皮に肌を包んだ人々が櫻の花もお正月だわと語つている

元旦　新年　謹賀　1951

石城農業會館團体一同

平市農業協同組合　組合長 江尻忠平　專務理事 鈴木政一

飯野農業協同組合　組合長 山野邊鶴次郎　參事 小野善秋

神谷農業協同組合　組合長 平田八十治　參事 渡邊正三

平製氷株式會社　社長 伊藤東一　平市五丁目二一　電話六三四番

片倉工業株式會社　平製絲所　所長 中村房平　平市三倉八　電話八一～八二番

磐城海産物市場株式會社　平市大工町二二

平市大字鎌田（舊神谷村）　阿部長兵衛

麻袋セメント紙袋　山田製袋工場　石城郡内郷町　電話平一九二番

平地區商業協同組合　平市古鍛冶町九二

平市旅館組合　組合長 水竹泰助

平市鐵工業會　會長 佐藤源吉　平市月見町

福島縣酒類卸協同組合　平支店　平市三丁目六

浜通パン協會　會長 今井吉太郎　平市大町一八　電話八二七番

株式會社　平魚市場　平市四丁目　電話一二三九

小野榮吳服店　小野榮一　平市四丁目

木炭と氷の店　水野氷室　平市大町通り　電話二九九番

カメラ材料商　田中カメラ店　平市三丁目三八

飯田カメラ店　平市紺屋町

明けまして御目出度う　美鈴カメラ店　平市田町四七

明けまして御目出度う存じます　茂木カメラ店　平市平和通り　電話一〇九二番

破魔弓羽子板　玩具一式　金太郎玩具店　平市三丁目大通り

森下玩具店　平市一丁目本通　電話三八六番

平市紺屋町二四　小川屋商店

平名物酒まんぢう　豐松　平市一丁目〃中央通り

一九五一年の新春を皆様と共にお慶び申上げます　食堂不二屋　平市中央通　電話八八六番

新年宴會歡迎　割烹大貞　平市田町七三　電話四一三番

割烹料理　松本樓　平市南町　電話一一三番

正月3日より7日迄（二本建上映）
ソ連總天然色長編漫画ピーター、エルショフのお伽噺より
せむしのこうま
眼が廻る程賑やかな新型撮影所風景
喜劇金語樓の珍妙二役!!
アマカラ珍騒動
キャスト　柳家金語樓　野上千鶴子
文化平館

正月4日より7日まで（4日間）
鮮血したゝる謎の手型？
大江戸八百八町に怒濤の如き迫力を呼ぶ
左近捕物帳　時代劇黄金篇!!
鮮血の手型　監督 原研吉
キャスト　阪東妻三郎　花柳小菊　美空ひばり　市川小太夫
平館

正月5日まで
肉体か？黄金か？白蛇の肌を紅燈の巷に張つて男心を朝笑する美貌の魔女
映大　偽れる盛裝　監督 吉村公三郎
キャスト　京マチ子　藤田泰子　阿津清三郎　小林桂樹　菅井一郎　進藤英太郎
世界館